

第26期（2025年4月1日から2026年3月31日まで）

計 算 書 類

貸 借 対 照 表
損 益 計 算 書
株主資本等変動計算書
個 別 注 記 表

AGビジネスサポート株式会社

貸借対照表

(2026年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	106,053	流動負債	15,712
現金及び預金	2,628	1年内返済予定の長期借入金	2,641
営業貸付金	104,171	未払金	1,591
買入金銭債権	2,335	未払法人税等	678
未収収益	540	賞与引当金	3
未収入金	0	支払承諾	10,391
前払費用	17	リース債務	10
支払承諾見返	10,391	その他	393
その他	473	固定負債	88,621
貸倒引当金	△ 14,505	長期借入金	88,611
固定資産	5,598	リース債務	10
有形固定資産	43	負債合計	104,333
建物	11	(純資産の部)	
器具及び備品	13	株主資本	7,317
リース資産	18	資本金	110
無形固定資産	595	資本剰余金	27
ソフトウェア	510	資本準備金	27
ソフトウェア仮勘定	81	利益剰余金	7,180
電話加入権	3	その他利益剰余金	7,180
投資その他の資産	4,958	繰越利益剰余金	7,180
破産更生債権等	1,085		
関係会社株式	50		
繰延税金資産	4,686		
その他	46		
貸倒引当金	△ 909	純資産合計	7,317
資産合計	111,651	負債・純資産合計	111,651

損益計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		
営 業 貸 付 金 利 息	10,000	
信 用 保 証 収 益	3,261	
そ の 他 の 営 業 収 益	2,769	16,031
営 業 費 用		
金 融 費 用	1,389	
そ の 他 の 営 業 費 用	13,291	14,681
営 業 利 益		1,349
営 業 外 収 益		
そ の 他 の 営 業 外 収 益	5	5
営 業 外 費 用		
そ の 他 の 営 業 外 費 用	4	4
経 常 利 益		1,350
税 引 前 当 期 純 利 益		1,350
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	1,739	
法 人 税 等 調 整 額	△1,198	540
当 期 純 利 益		809

株主資本等変動計算書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主 資本 合計	
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	その他 利益 剰余金 繰越 利益 剰余金	利益 剰余金 合計		
当期首残高	110	27	27	6,370	6,370	6,508	6,508
当事業年度変動額							
当期純利益				809	809	809	809
当事業年度変動額合計				809	809	809	809
当期末残高	110	27	27	7,180	7,180	7,317	7,317

個 別 注 記 表

【重要な会計方針】

1. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 15年～18年

器具及び備品 2年～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

営業貸付金等の債権の貸倒れに備えるため、一般債権については、貸倒実績率等を勘案し必要と認められる額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

3. 収益及び費用の計上基準

- ・営業貸付金利息は発生基準により計上しております。
- ・信用保証収益は残債方式により収益計上しております。
- ・借入金に対する利息の会計は金融債権に対応する部分を「営業費用」（金融費用）として処理しております。

4. 控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税等は、「投資その他の資産」の「その他」に計上し、5年間で均等償却しております。

5. 関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続

- ・重要な債務保証の資産及び負債の計上基準

債務保証を行う業務に係る債務保証残高については、貸借対照表の流動資産に「支払承諾見返」として、また流動負債に「支払承諾」として両建て表示しております。

6. グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

【重要な会計上の見積り】

1. 貸倒引当金

(1) 当事業年度に計上した金額 15,415百万円

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

営業貸付金、支払承諾見返を債務者の支払状況等に基づいた信用リスクに応じて正常債権、管理債権、破産更生債権等に分類しております。

ア. 正常債権

事業者向け、有担保等の貸付種別毎に平均取引期間等の算定期間における貸倒実績率を用いて貸倒見積高を算出しております。

イ. 管理債権

一定期間以上の支払遅延のある債権については、事業者向け、有担保等の貸付種別毎に債務者の遅延期間等により信用リスクに応じて分類し、それぞれの分類における平均残存期間等の算定期間における貸倒実績率を用いて貸倒見積高を算出しております。

ウ. 破産更生債権等

個々の債権毎に見積もった回収見込額（担保処分見込額を含む）を債権残高から差し引いた残額を貸倒見積高としております。

②主要な仮定

事業年度末における経済状況の変化は、債務者へ直接的又は間接的な影響を与える可能性があります。当該変化を営業貸付金、支払承諾見返の評価に反映するために貸倒実績率の補正要否に関する判断を行っております。

③翌事業年度の計算書類に与える影響

過去の実績や入手可能な情報等をもとに様々な要因を考慮して貸倒引当金を計上しておりますが、将来の不確実な経済状況の変化が債務者へ直接的又は間接的な影響を与える可能性があり、その結果として現れる回収状況等に依りて貸倒実績率の判断が変化する場合、貸倒引当金に増減が生じる可能性があります。

【貸借対照表に関する注記】

1. 有形固定資産の減価償却累計額		94	百万円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	短期金銭債権	-	百万円
	短期金銭債務	1,049	百万円
	長期金銭債権	-	百万円
	長期金銭債務	65,840	百万円
3. 百万円未満の端数は、切り捨てて表示しております。			

【損益計算書に関する注記】

1. 関係会社との取引高	営業取引	1,253	百万円
	営業取引以外の取引	-	百万円
2. 百万円未満の端数は、切り捨てて表示しております。			

【株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	前事業年度末株式数	当事業年度末株式数
普通株式	100,000株	100,000株
甲種優先株式	200,000株	200,000株

【税効果会計に関する注記】

繰延税金資産の主な発生の原因は、貸倒引当金の繰入限度超過額等であります。

【リース取引関係】

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主としてPC・プリンターであります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

【重要な会計方針】 1. 固定資産の減価償却方法の記載のとおりです。

【金融商品に関する注記】

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産に限定し、また、資金調達については親会社から借入のほか、銀行借入による間接調達を行う方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入金は、主に運転資金として、固定金利による資金調達を中心としております。これらは、金利の変動による影響を一定程度回避できる一方で、市場金利の動向によっては、相対的に調達コストが割高となる可能性があります。

当社グループとして、適時にグループ全体の資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
営業貸付金	104,171		
貸倒引当金(*2)	△14,505		
	89,665	102,126	12,461
破産更生債権等	1,085		
貸倒引当金(*2)	△909		
	175	175	-
資産計	89,841	102,302	12,461
長期借入金(*3)	6,912	6,856	△55
負債計	6,912	6,856	△55

(*1) 現金は注記を省略しており、また預金及び買入金銭債権は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額と近似することから、注記を省略しております。

(*2) 営業貸付金、破産更生債権等、それぞれに対応する貸倒引当金を控除しております。

(*3) 長期借入金は、関連当事者からの借入金を含めておりません。

(注) 1. 時価の算定に用いた評価技法

(資産)

(1) 営業貸付金

営業貸付金については、回収可能性を反映した元利息の受取見込額から回収費用見込額を控除した額を残存期間に対応する安全性の高い利率で割り引いた現在価値より算定しております。

(2) 破産更生債権等

破産更生債権等については、担保による回収見込額に基づいた貸倒見積額を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積額を控除した金額に近似していることから、当該価格をもって時価としております。

(負債)

(1) 長期借入金

長期借入金については、変動金利によるものは、短期間で市場金利及び信用リスクを反映していることから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、元利息の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値を時価としております。また、1年内に決済される借入金の時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

2. 市場価格のない株式等

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額
関係会社株式(※)	50

(※)関係会社株式については非上場株式であり、市場価格のない株式等であることから、時価の開示を行っておりません。

【関連当事者との取引に関する注記】

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権の所有(被所有)の割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	アイフル株式会社	(被所有)間接100	資金の援助 役員の兼任	資金の借入(注) 1	246,280	長期借入金	65,840
				資金の返済(注) 1	237,599	-	
				利息の支払(注) 1	1,165		-
				通算税効果額	737	未払金	737
				銀行借入に対する債務の被保証(注) 2	6,912	-	-
同一の親会社を持つ会社	ライフカード株式会社	なし	資金の援助	資金の借入(注) 1	236,500	長期借入金	18,500
				資金の返済(注) 1	223,500	-	-
				利息の支払(注) 1	123		-

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 関連当事者からの資金の借入については、市場金利等を勘案した利率（6ヶ月毎見直し）による極度額契約を締結しております。
2. 金融機関からの借入に対して債務保証を受けております。

【1株当たり情報に関する注記】

1株当たり純資産額	24,393円28銭
1株当たり当期純利益	2,699円45銭

【重要な後発事象に関する注記】

該当事項はありません。

【収益認識に関する注記】

- ・収益を理解するための基礎となる情報
「重要な会計方針」の「3. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

【その他の注記】

該当事項はありません。